

生活

旬のやさしい レタス
 語源はフレンチ語で乳。新鮮なものは切り口から白い液がにじみ出るため、連想させたのでしよう。液には軽い鎮静作用と催眠効果があります。

くらしのこよみ
 うつくしいくらしかた研究所

◎ 東京新聞

● 直腸がん

直腸がんは、排便時の出血で気が付く人が多いと思います。しかし、痔を患っていると、その出血と違って様子を見てしまい、腸が詰まる腸閉塞を起こして緊急の手術、という場合もあります。



在宅医療のカルテ

とこの訴えで肛門の診察をしたところ、直腸に腫瘍を発見。さらに、紹介した専門医の検査で、直腸がんであることが分かりました。Hさんは、高齢であることや

負担少ない治療を

百歳の女性Hさんは、高血圧や心臓病のために当院が診療をしていました。ある時、便に血が混じ

る。肛門近くにできた病変の手術では、昔は人工肛門になってしまう例もありましたが、最近では、できるだけ肛門の機能を温存する方法を取るようになりました。開腹手術だけでなく、腹部に開けたいくつかの小さな穴から内視鏡や手術鉗子を挿入して行う腹腔鏡手術や、肛門から手術器具を入れ切除する方法もあります。



胸の聴診をする (一部画像処理)

持病の心臓病もあるので手術をためらっていたのですが、このまま何もしないと出血が続いたり、腸が詰まってしまったりして、より重症になる可能性を話したところ、

る、ようやく、手術を受ける決心をしました。

内視鏡による手術を行い、三日ほどで退院することができました。その後は、以前と同様に、歩くことも食事をすることもできるようになり、Hさん本人や家族は、たいへん喜んでいました。

このように、直腸がんであっても、高齢という理由だけで外科的な治療を断念する必要はありません。身体への負担を考慮した治療法を選択することができます。日本の百歳の女性の平均余命は約二年です。まったく何も病気をせず、老衰で天寿を全うする方もいますが、多くの方は、Hさんのように病気を克服しながら、長寿を迎えています。

(川崎高津診療所院長)

次回回は八月四日掲載